

## 効果の確認された摂食症母親支援プログラムの活用方法を伝授します！

○香月 富士日<sup>1)</sup>、澤田 華世<sup>1)</sup>、川崎 友香<sup>2)</sup>

1) 名古屋市立大学大学院看護学研究科、2) 名古屋市立大学病院

摂食症（摂食障害）は、思春期に好発する深刻な疾患です。その症状は、極端なやせ願望を背景に、死を目前にするほどの低体重となり、それでも食べることを拒否する拒食や、大量に過食し嘔吐する症状などがあります。患者さんの症状の一部（強迫的な確認行動、家族への食事の強要、大量の食糧を買うための多額の費用支出、自傷行為など）は、家族（特に母親）を巻き込むため家族も非常に辛い状況におかれています。一方、患者さんは自分の思考や感情を意識化することが不得手と言われており、そのため言語での自己表現がしにくいという特徴があります。直接的でない表現（「○○してくれたら食べる」など）が多くなるため、家族間のコミュニケーションが複雑になっています。摂食症治療には基本的に適応とされる薬物療法はありません。多くの患者さんが十分な治療や支援を受けられないまま在宅生活を送っており、それを支える親にも大きな精神的負担がかかっています。

### ＜新たに開発したセラピーの方法＞

私たちは、このような状況におかれている患者さんの親に対して、対人関係療法を活用した支援プログラムを開発しました。4回4週間のプログラムで親の傾聴能力が向上する効果を確認しました<sup>1)</sup>。対人関係療法は、対人関係に焦点を当てて治療しますが、その中でも変化への適応支援に焦点を当てる場合があります。思春期は変化が大きく早いという特徴があり、病影の影響もあって親子でこの変化に適応するのがむずかしい状態があります。このプログラムでは、思春期/青年期の特徴をとらえながら、ロールプレイやグループセラピーを通して親が対応方法の引き出しを増やしていくしくみになっています。親自身が傷ついている状態であるので、プログラムでは全体を通して、暖かみのある環境を整えながら行います。

### ＜ワークショップの内容＞

この支援プログラムを普及するために、マニュアルや教材を作成しました。ご参加いただいた方には無料で進呈したマニュアルを活用しながら内容をご説明する予定です。摂食障害の看護を行っている方、摂食障害の看護にご関心のある方はぜひご参加ください！

- 1, 摂食症の症状と治療について
- 2, 対人関係療法の基礎的知識
- 3, 本プログラムのご紹介（動画含む）と活用方法
- 4, 活用についてのディスカッション（質疑応答）

この演題に関する利益相反はありません。

1) Katsuki,F.,Sawada,H.,Kawasaki,Y.,et.al.: Effectiveness of Remote Family Education and Support Program for Parents of Adolescents with Eating Disorders Based on Interpersonal Psychotherapy: A Randomized Controlled Trial. International Journal of Eating Disorders, 58(12), 2281-91, 2025.